

“今、くらしが大変 順序がちがいます”

くらし・子育て・農業応援の政治を

ふるさと交流村の「構想」を「計画」に移し進めようとしています。が、町民の中に不安はつります。私たちが提案している「やるなら全町民対象に意識調査を行なうべき」にさまざまな声が寄せられています。先のアンケートの声と合わせて紹介します。

（Aさん）
商売人として考えると道の駅ができるのと売り上げも増えていいかなとも思う。しかし、冷静に一町民として考えると、甲良町で特産品もない、それだけではなく、売るもんがない段階で道の駅をつくるのに何億というお金をつき込めば夕張のようになるだけ。赤字を背負うのは町民だけや。よその者が笑っている。「甲良町は赤字を覚悟でやるつもりか」と。行政が全町民からアンケートをとる案は大事な事。みんなで決めるればええのや。（Aさん）

（Bさん）
まず、何を売るのが。甲良町を代表する人気商品があるわけではない。道の駅ができたらいいと願望を持っている町民もいるや。しかし、その「願望」が億の力ネをかけて経営として成り立つはずがない。現時点ではやめたほうがいい。

（Cさん）
やるならやったらええ。そやけど農業者には始まりの段階から何の相談もない。ほとんどできあがったころになって「協力してくれ」では行政の考えばかりや。協力できるはずがない。心は離れてしまっている。（Cさん）
はじめから豪華なものを考えすぎや。北落の直売所をもつ少し手をかけて

きれいにしたり、駐車場を少しだけでも広くしたらいい。やらせるだけやらしといたらいい。（Dさん）
全く順序がちがう。町民の側、生産者の側が一生懸命売れるものを作って、消費者も注目して甲良町が活気付いて「内なる力」が満ち満ちてきて、満を持して「それなら拠点を作ろう」と合意に進んでくるのなら理解できる。しかし、今の「交流村」の計画はどう見ても町民の側から沸き起こってきたものではないですね。（Eさん）
もっと農業実績を充分つんで、勉強をしてください（道の駅を推進すべきとする60才代女性）
マーガレットステーションレベルの運営ができなければ利用者は期待できない。中途半端な無駄使いはやめてほしい（30才代女性）

ある事情で、頻繁に各地の「道の駅」を利用していているというM氏（旧湖東町在住60歳代・元建築業）に聞きました。

やっぱり地元の特産品

「現役を息子の代に譲ってからは、しょっちゅう各地の道の駅を利用するが、地元の特産品を売っているところは客が多い。ところが、どこでも手に入る商品を買ってるところは、人も少ない。入ってしても「なんや」とガツカリして二度と行くとは思わん。その土地ゆかりの産物にこだわったところは店に何か知らん熱気が漂っている。そんなところは自分も何回も行って。愛東は地理も有利な上に農産物づくり支援の年輪がダントツにちがう」

6月議会に向けて 要望をお聞かせ下さい。

6月議会では、当初予算では反映できなかった事業や、その後具体化された事項などが議案として提出されます。また一般質問として町行政の計画や姿勢などをたずねることができます。みなさんのご意見やご要望をお待ちしています。

日本共産党演説会

お年寄りいじめもはなはだしい「後期高齢者医療制度」 またもや増税を押し付ける「暫定税率」復活 ドンドン上がる諸物価、下がるのは福田内閣の支持率だけ 日本共産党はどんな道筋でこの日本を改革しようとしているのか？
○はじめての方も、どうぞお越しください。

5月28日（水）午後7時開会

ひこね燦ぱれす・大ホール

弁士 衆院比例 近畿ブロック

宮本たけし
川内たかし

甲良民報

2008年5月11日 382号
発行責任：日本共産党甲良町支部
代表：西澤伸明 甲良町在土463
Tel. Fax 38-4949

